

# カルメル 霊性センターニュース



2024年2月      405号

## 目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	23
東京	24
名古屋	25
京都	26
通信深読お申込みのご案内	30
諸所の企画案内	31
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	35

# 心の泉



宇治カルメル会修道院





### 第三卷

## 第五十八章 深遠な奥義や、はかり知れない神のみ旨を、 みだりに探ってはならない

### 9 天においては皆、偉大である

ある人は、神のみ国において誰が一番高いかを探ろうとするが、その自分ももっとも小さな者のうちの一人にさえ数えられているかどうかわからない。天において一番末席にあることさえ、偉大なことである。なぜなら、そこではすべてが偉大な者であり、すべて「神の子らと呼ばれ」(マタイ5・9)、事実そうだからである。

罪人として百歳まで生きても永遠の死を受け、「幼くして死んでも天において千人の聖人」(イザヤ60・22)の上に上げられる者もある。そこで弟子たちが、天の国で誰が一番偉大かとたずねた時、主は、「あなたたちが、悔い改めて子どもにならないなら天の国には入れないだろう。誰でも、この子どものようにへりくだる者が、天の国では偉大な者である」(マタイ18・3・4)と答えた。

### 10 傲慢な人、富んだ人はわざわざい!

自ら進んで、子どものようにへりくだることを好まないものは、わざわざである。天の国の門は低く、彼らは入ることができない。また、この世においてすべての楽しみをもった「金持ちも、わざわざである」(ルカ6・24)。貧しい者が神の国に入っても、彼らは外に残って嘆き悲しまなければならない。謙虚な者よ、喜びなさい。貧しい者よ、喜びなさい。神の国はあなたたちのものである。あなたが真理の道を歩み続けるならば。》

## 第五十九章 すべての希望と信頼とを神に置く

### 1 子

《主よ、この世でもち得る信頼、あるいは天の下に、ありとあらゆるもののうちで私の慰めとなるものは、どこにあるのでしょうか？無限の慈悲である主なる神以外のどこにあるのでしょうか？あなたなしに私はどんなよいことをおこなったのでしょうか？また、あなたと共にあって、よくないことがあったのでしょうか？私はあなたなしに富むよりも、あなたと共に貧しくあることを望みます。私はあなたなしに天国をもつよりも、あなたと共にこの世を歩き続けることを望みます。あなたがいるところが天国であり、あなたがいないところは死と地獄なのです。あなたは私が切に望むお方です。だから、あなたを呼び求めて嘆き叫びながら、従っていかなければなりません。私が必要に迫られた時、神であるあなた以外の誰に、信頼をもって助けを願うことができるのでしょうか？「あなたは私の希望」(詩編142・6)、私の信頼、すべてにおいて私の慰めです。》



寒さのうちに準備していた命がほころびて、甘い香りをそっとまわりに漂わせて蠟梅が姿を見せる頃となりました。教会の典礼暦では二月十四日は灰の水曜日、四旬節がはじまります。

わたしたちを愛である神へと導くのは信頼、ただ信頼のみです。

～テレーズ～

信頼、ただ信頼だけが、わたしたちにすべてを与えてくださる愛である神へと導きます。信頼によって恵みの源泉は、わたしたちの生活の中に注ぎ込まれます。こうして福音はわたしたちの血となり肉となって、わたしたちの兄弟姉妹のための慈しみの運河へとわたしたちをと変えてください。

～教皇フランシスコ 使徒的勧告 聖テレーズ生誕 150 周年にあたって～



神の愛のために 元気を出しましょう・・・

愛は 決して手をつかねて

休んでいることはできません・・・

愛は空想の産物であってはなりません

実行で証明されなければならないのです ～アビラの聖テレジア～

ご復活までの四〇日間、荒れ野を旅して、約束の地、復活のキリストを目指してさらに信仰を深めてゆくことができますように。日々の試練の内にもひたすら神の慈しみを信頼して歩み続けることができますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

## 能登半島地震

九里 彰

二〇二四年は金沢に住む私にとって、大変な幕開けとなった。よりによって元旦に能登半島地震が起きたからである。とはいえ、金沢では山際で土砂崩れが起きた程度で、市街地にはほとんど被害はなかった。

これに対し、珠洲市や輪島市や穴水町などの能登地方では家の倒壊、道路の地割れ、それに加え、火災や津波などで、甚大な被害が生じた。1月23日現在で、死者233人、安否不明21人、負傷者1061人、住宅被害2万2374棟。金沢教会の事務をされている方のお兄さん一家に悲劇が襲った。年の初めに、家族全員がお兄さんの奥さんの実家（穴水）に集まり、正月料理を味わい、一家水入らずの団欒を楽しんでいた矢先に土砂崩れが起こり、10人が生き埋めになった。お兄さんはたまたま仕事で金沢にいたため難をまぬがれたが、奥さんと子供4人（長男24、次男21、三男19、長女15）、奥さんのご両親と奥さんの弟さん家族3人が犠牲となった。

絶句するという表現があるが、まさに言葉がない。瞬きの詩人、水野源三さん（一九三四～八四）の「主よ なぜですか」という詩が思い浮かんだ。

主よなぜですか  
父につづいて  
母までも  
み国に召されたのですか  
涙があふれて  
主よ 主よと  
ただ呼ぶだけで  
つぎの言葉が  
出て来ません

主よあなたも  
私と一緒に  
泣いてくださるのですか

# 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (187)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

## 権威の行使において (1)

ヨハネ修士の人間性と聖性は、権威の行使の仕方に共に輝き出ています。彼がアビラで聴罪司祭であった時、修道女たち一少なくとも 140 人はいました—が彼の霊的指示に従い、徐々に改善されていくのを見て、一人の修道女が彼にたずねました。

「これらの修道女たちをどうなさるおつもりですか。あなたが望まれることを彼女たちにさせるようにされて」。

ヨハネ修士は答えました。「神さまがすべてをなさりますように。そのために、彼女たちから好かれるように私を導いてくださいますように」。

ここに、彼の教育法の永遠の秘訣があると、私は思います。すなわち、皆から好かれるようにすること、愛されるようにすることです。

実際、目下の者たちは、たくさんの理由から彼に好意を持っていました。なぜなら、彼がすべてのことにおいてすべての人の先頭に立っているのを見ていたからです。祈りにおいて、掃除において、皿洗いにおいて、病者の訪問において、すべての人の意見を聞くことにおいて、彼はもっとも謙遜で単純であり、すべての者の善のためにしばしばすばらしい考えを提案する人だったからです。

物事をよく考え、自分の発言を完全にコントロールできる修道者の一人は、こう言いました。「…彼はあたかもそれぞれの父親であるかのように、目下の者から愛されていました。それは、くだんの神父が外出した時、それも町までで数時間以上にならないとしても、もどって来た彼を見ると、修道者たちはとても大喜びし、もどって来るのを見たすべての者が大急ぎで彼のもとに行き、手やスカプラリオに接吻し、祝福を受けるほどでした。くだんの聖なる神父は、聖人の心でこれらを受け、彼らをやさしく抱きしめました。この証人はそのことを知っています。というのもくだんの聖なる神父が当時、長上であった修道院でしばしばこの光景を見たからで、この証人は目下の一人だったからです。

(P. 九里訳)

## 年間 第5主日 (B)

(マルコ 1 : 29 - 39)

「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、  
そこで祈っておられた」

聖マルコ福音は、イエスの宣教の初期の頃の典型的な日のことを述べています。会堂から出て、イエスはシモンとアンデレの家に行き、そこでシモンの姑の病をなおしました。夕方になると、あらゆる病人や悪霊に取りつかれた者たちがイエスのところに連れてこられました。イエスは病人を癒し、悪霊を追い出しました。朝早くイエスは人気のない場所へ行き、そこで祈りました。シモンと仲間たちはイエスを探しました。イエスは宣教することのできる近くの村に行くように彼らを招きました。イエスはガリラヤ中をまわり、会堂で神のみ国のメッセージを宣言し、悪霊を追い出されました。

イエスがなさった主な三つのことは、癒すこと、祈ること、そして宣言されることです。イエスは、ご自分が他者のために教えたり、癒したりするためには霊的な手助けが必要となるだろうと確信されました。イエスは、教えること、癒すことはご自分の力を抜き取るので、祈りが必要であるとご存じでした。砂漠のさびしい場所はイエスが気を散らす邪魔なものに干渉されない場所であり、「御父との交わること」で祈りにご自分を全面的に与えることのできる場所でした。イエスの日々の仕事で消耗するエネルギーはイエスの祈りの生活に対する忠実さから湧き出していると福音は示しています。イエスは弟子たちに御父との深い関係を示しています。イエスはご自分に従ってくる人たちに、意味深い仕事の秘密、すなわち祈りへの没頭を分かちあっています。私たちは日々のスケジュールがどれほど忙しくても、祈りに忠実であるようにとの挑戦を受けているのです。

本日の福音は、困窮している兄弟姉妹への愛をこめた奉仕に自分を与えるように招いています。私たちのすべての奉仕の仕事は、祈りの生活から湧き出てきます。日々の祈りに時間をきめ、それに忠実であるべきです。

(Sr. Pauline)



## 年間 第6主日 (B)

(マルコ 1 : 40 - 45)

今日の福音は、イエス様は、ご自分のところに来て癒しを願った重い皮膚病を患っている人を憐れまれます。聖書学者によれば、ここでの「憐れむ」(スプラクニゾマイ:はらわたする)という語の写本の信頼度は最低に位置づけられており、「憐れむ」でなく「怒って」の写本の方がより信頼度が高いとのこと。「怒って」の場合は、イエス様の怒りは、「重い皮膚病を患っている人に苦しみを与えている病や神の創った創造の秩序を破壊する悪霊への怒りと捉えることができ、その怒りが苦しんでいる人の癒しを実行させました」(雨宮)。

「憐れみ」と「怒り」は対極にあるような気もしますが、ここでの怒りのように、その怒りが他者に苦しみを与えているそのもの自体への怒りの場合、その苦しみを除去するように働くのだと思います。その場合は、「憐れみ」と「怒り」は繋がってくるのでしょうか。「憐れみ」は日本語だけで捉えようとすると、上から目線で鼻持ちならないような響きがあるような気がします。が、「憐れみ」は神学用語として理解するべきだと思います。「憐れみ」は、スプラクニゾマイ、はらわたする、というギリシャ語ですから、他者の苦しみが自分の苦しみのように感じられ、何かせずにはいられない、居ても立っても居られないというようなつき動かす感情ですから、具体的な癒しの業へとつながるここでのイエス様の「怒り」と繋がるのではないのでしょうか。

世の中では多くの悲惨なことが起こります。地震や戦争、経済格差での酷い貧困、今日の箇所は、そのよう悲惨なことが起こり苦しんでいる人を神様がどのようにご覧になっているかを教えてください。神様は、人が酷い苦しみに陥るようなその原因に対して、怒られるのです。そして、その苦しみを取り除くために働かれておられます。イエス様も弟子たちの船が嵐に見舞われて沈みそうになった時、その原因の風に向かって、黙れ、静まれと言われました。自然災害による被害であっても、神様の望みは人が真にいのちの内に生きることです。今回の能登地震で被害に遭われ、大きな苦しみの内にある方々に対して神様はどのような思いでおられるかを今日の福音は示しています。その神様の心に協力する全ての人は、イエス様の怒りと憐れみ、清めの業に参加しています。

(P. 志村)

## 四旬節 第1主日 (B)

(マルコ 1 : 12 - 15)

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」

今日は恵みの季節である四旬節の第1主日を迎えています。四旬節は、灰の水曜日から過越の聖なる三日間前までの40日間にわたり熱心に霊的な準備をする期間として母なる教会から与えられており、断食・祈り・施しの3つの大切なことを実行します。

聖マルコは、イエスが具体的にどんな誘惑を受けたかは語っておらず、イエスがヨルダン川で洗礼を受けてから40日40夜断食した後、荒れ野で悪魔から誘惑を受けたとだけ書いています。イエスは誘惑に屈せず御父の計画とご自分に託された使命に忠実であり続けます。そして宣教活動中、イエスは「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と宣べ伝えます。これこそイエスの宣教の目的であり、四旬節を過ごす私たち全員に向けられたメッセージです。四旬節第1主日の今日、自分たちが今すぐ悔い改める必要があることに深く気づくように招かれています。「悔い改め」とは、思考や心の向きを変えること（ギリシャ語でメタノイア metanoia）を意味します。悔い改めと誘惑との闘いは生涯続きます。福音を信じるとは、神が御子イエスのペルソナを通じて救われるとイエスを信じることです。私たちは、自分の罪深い生き方を悔い改めたときだけ神の御ひとり子イエスを体験できます。「時は満ちた」というイエスの宣言は、待ちわびた「神の国」がイエスのペルソナにおいて現存することを意味します。

四旬節の歩みの中では特に2つのことに注力するのが大事です。1つ目は、自分の罪や悪事を悔い改めること。そして2つ目は、イエスが私たちを救うことができるという福音を信じることです。この四旬節中ずっと、神の恵みと霊が私たちに同伴してくださいますように。

*(Sr. Paulina)*

## 四旬節 第2主日

(マルコ 9 : 2-10)

2月も最後の日曜日、四旬節第2主日を迎えました。今日の福音は主のご変容の場面。イエスは、弟子たちの中からペトロ、ヤコブ、ヨハネの3人だけを一緒に連れてゆかれ、高い山に登られました。そしてこの主のご変容の出来事が起きました。

イエスの姿が3人の弟子の目の前で変わります。イエスの服は真っ白に輝きました。この真っ白さを補足するように、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白く…とありますので、神々しく白く輝いていたのではないのでしょうか。ちなみにルカ福音書のご変容の場面には「顔の様子が変わり」とあるのですが、今日のマルコ福音書にはその記述はありませんので、服が真っ白に輝いたことを想いながら、イエスの変容のお姿を思慕されてはと思います。

さてそこに2人の人物が登場します。どちらも偉大な預言者であるエリヤとモーセ。何について語っておられたのかは、特にマルコによる福音書には描かれていませんが、ルカ福音書には、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について…とありますので、そのことを想いつつ、何についてお話しになられておられたのだろうか、思い巡らしても良いのではないのでしょうか。

ところで今日の福音の箇所前の章、8章では、イエスは、四千人に食べ物を与える奇跡を行い、目の見えない盲人の目を癒し、その後、イエスは誰であるかということを探ねられたペトロはイエスが「メシア」であるということを読み表しますが、すぐ後で、イエスが弟子たちにご自分は苦しみを受けて殺され、三日目に復活することを話した際、イエスを脇へお連れして諫め始め、イエスから叱責される出来事がありました。

イエスが一体どなたであるのか、何のためにこの世に来られたか、そのことについて完全には理解していない不完全な弟子たち。その弟子たちが、イエスの証し人となって福音を告げ知らせていくために、この不思議な出来事に同伴するように、3人を招かれたのではないのでしょうか。

神の現存…雲の中から、「これはわたしの愛する子。これに聞け。」と声がします。ペトロ、ヤコブ、ヨハネがこの声を聞いて、神の子イエスに聞いて歩んでいった様に、私たちもこの声を心に留めて、イエスに聞きながら歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

# いのちの言葉 2月

何事も、愛をもってしなさい。1

(1コリント 16:14)

今月は、私たちの歩みを照らす灯<sup>2</sup>として、使徒パウロの言葉と経験に私たち自身を照らしてもらいましょう。

パウロは、コリントのキリスト者に対してと同じように、私たちにも強いメッセージを告げています。

このいのちの言葉は、パウロの手紙の締めくくりの一文です。手紙では、愛について大変豊かな示唆とあらゆる面からの説明がなされています。愛は忍耐強く、情け深く、真理を喜び、自分の利益を求めない<sup>3</sup>..。

キリスト者の共同体において、このようにお互いの愛を生きるなら、共同体を常に脅かす分裂の傷を癒し、世にとっての希望のしるしとなりえます。

**何事も、愛をもってしなさい。**

ギリシア語で書かれたこの手紙の中で、パウロは「愛のうちに」振る舞うよう勧めています。それを「常に、愛である神様の内に住まうように」と表現しているのが印象的です。

どうやったらそのような態度で互いを、そして一人ひとりを受け入れることができるでしょうか。それには、神様の方からまず、この私の弱さもひっくるめて私を本当に愛して下さっていることを知らなければ難しいでしょう。

このことを改めて自覚することで、私たちは恐れずに他者に心を開くようになるでしょう。相手の必要を理解し、ものや心を分かち合いながら、寄り添うことができるでしょう。

イエスは私たちのモデルです。彼がどのように振る舞ったかを見てみましょう。

イエスは常に自分から先に与えられました。「…病人には健康を、罪人には赦しを、私たち皆にはいのちを（与えられた）。利己的、本能的な『ため込み』に対しては『寛大さ』を、自分の必要ばかりを中心に据えることに対しては『他者への配慮』を。『所有の文化』に対しては、『与える文化』を。与えられるものの大小は問題ではありません。大切なのはどのように与えるかであり、たとえ小さな気配りひとつであっても、どれだけの愛を込めるかなのです。…愛は、隣人に耳を傾けたり、奉仕や時間を差し出したり、といった接し方だけでも、寄り添うことができるかと教えてくれます。相手のそばにいて愛そのものであろうとすることは、どれほど大切でしょうか。そこから、相手の心に入り、励ますための近道が見つかることでしょう」<sup>4</sup>。

今月のみ言葉は、他者を尊重し、偽りなく、創造性をもって接することを教えてくれます。また、相手の望むことを大事にすれば、全体の益のために、それぞれの役割を果たせるような道を開いてくれるでしょう。

このみ言葉を生きてみると、日々の生活の中にさまざまなチャンスがあることに気がつきます。家の中、田畑、作業場で、あるいは事務処理、学校の宿題をするときに。また、社会生活、政治活動、宗教活動における責任を果たすときにと、あらゆることが、気配りや思いやりのある奉仕に変わるでしょう」<sup>5</sup>。

日々のシンプルなことの中で、生きた福音がちりばめられた、美しいモザイク画が想像できるのではないのでしょうか。

あるご夫婦の体験です。「近所の女性が、大変つらそうに、息子さんが刑務所にいると打ち明けてきたとき、私たちは面会に行くことにしました。面会日の前日は、この息子さんにかかるべき言葉を見つける恵みを願って、断食をしました。それから、息子さんの保釈金を工面しました。」<sup>6</sup>

今も国内で紛争が続く、カメルーン南西部のブエアという町で、ある若者のグループが、内戦によって国内避難民となった人々を支援するため、物資と募金を集めました。<sup>7</sup>あるとき彼らは、逃亡中に片腕を失った男性を訪ねました。障害を伴って生きることになった男性は、今までの生活習慣を大きく変えることになり、それは大変な挑戦でした。「男性は、私たちの訪問が自分に希望と喜び、自信を与えてくれたと言ってくれました。私たちを通して、神様の愛を感じてもらえました」と若者の一人、レジーナは語りました。別の若者、マリタも言いました。「この経験を通して、愛をもってしたのなら、どんな贈り物も小さすぎることはないのだと、心から確信しました…他のものは必要ないのです。世界を動かすのは愛なのです。これを体験しましょう！」

レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編集チーム

\*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』  
今月のいのちの言葉は、ドイツの諸教会のグループが年間を通じて生きようと選んだみ言葉を、提案しました。
2. 詩編 119:105
3. コリント 13 参照
4. キアラ・ルービック 2006年10月の「いのちの言葉」より
5. 同上
6. S. ペッレグリーニ、G. サレルノ、M. カボラーレ、「Famiglie in azione. Un mosaico di vita (行動する家族、人生のモザイク)」（未邦訳）チッタ・ノーバ社、2022年 P70-71
7. 抜粋・編集、一致した世界プロジェクトのサイトより  
<https://www.unitedworldproject.org/workshop/camerun-condividere-con-gli-sfollati/>

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: [tokyofocfem@gmail.com](mailto:tokyofocfem@gmail.com) ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>



# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年12月4日

## フィリピン発：跣足カルメル女子修道女会の フィリピン設立100周年を祝う





フィリピン全土の跣足カルメル修道会は、100年にわたる神の誠実と愛の賜物を、主に感謝し喜び祝いました。それは1923年11月に、フィリピンのジャロ教区のジェームズ・ポール・マクロスキー司教がベトナムの跣足カルメル会修道女たちに、ジャロ教区の聖職者と信徒のために祈る跣足カルメル修道会を設立するよう要請したことから始まりました。

この設立100周年の恩寵を分かち合うために、ジャロ大司教区の司祭と神学生たちは修道女とカルメル在世会の会員と共に、Carmel@100:カルメル ケアという、近隣の二つの村のための医療宣教プログラムを企画しました。

そして2023年11月7日、ジャロ大司教区の修道者、神学生、と幾つもの聖歌隊グループにより、跣足カルメル修道会総長ミゲル・マルケス・カッレ神父と、クリスティアヌス・スリノノ神父(OCD、東アジア・オセアニアの総長顧問)の臨席のもと、創立100周年記念連合のメンバー、カルメルの友人、後援者とともに、Carmel@100:祈りのコンサートが開催されました。

11月9日には、ローマ教皇庁バチカン大使 チャールズ・ジョン・ブラウン大司教の主司式によるミサ聖祭の祭壇を囲んで、祝賀会が執り行われました。共同司式者には、ジャロ大司教ホセ・ロメオ・ラソ、跣足カルメル修道会総長カッレ神父、総長顧問クリスティアヌス神父、ローランド・トリア・ティローナ大司教OCD、管区長レイ・ソテロ神父OCD、と管区のすべての修道士、大司教区の聖職者、そして数人の訪問司祭が含まれていました。

この日大聖堂は数え切れないほどのカルメルの友人、信者、巡礼者によって埋め尽くされました。

(訳・注:小宮山延子)



# カルメル誌 新刊案内



## 2023年 冬号 No.391

《ともに歩むーパンデミックの世界の中で》  
わたしの生活とシボス

中山眞理

カルメルの外のカルメル

ー教会の外から見られたアビラの聖テレジアと  
十字架の聖ヨハネ(4)

鶴岡賀雄

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の霊性(4)

ウイリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の霊は導く(8)

ーテレーズ生誕(1873~1897)ー五〇周年を迎えて  
伊従信子

風に吹かれて再び(6)ー百人隊長

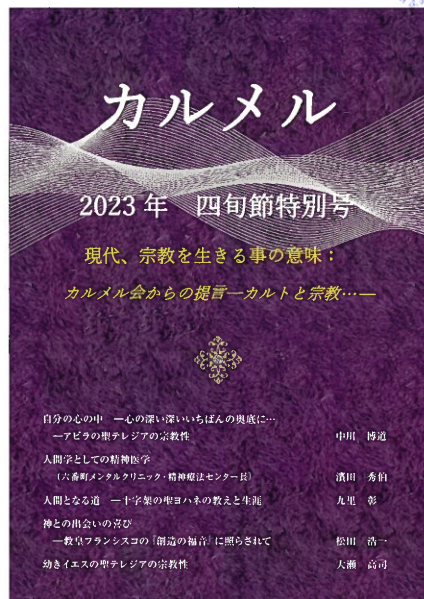
原 造

平和への道(4)

九里 彰

霊的研究会講義録(22)ー聖書・祈り・愛について

奥村一郎



## 2023年 特集号

現代、宗教を生きる事の意味：

カルメル会からの提言ーカルトと宗教ー

自分の心の中ー心の深い深いいちばんの奥底に…  
ーアビラの聖テレジアの宗教性

中川博道

人間学としての精神医学

濱田秀伯

人間となる道ー十字架の聖ヨハネの教えと生涯

九里 彰

神との出会いの喜び

ー教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて  
松田浩一

幼きイエスの聖テレジアの宗教性

大瀬高司

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を  
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

# 新刊紹介

## 聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ ロザリオの祈り



Chrysostomus  
小野崎良子 編

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師  
(カルメル会)  
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社の定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

### 小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

### ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

## 書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットやAIが発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長





# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳  
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 畏（1）
- 第2章 皆 畏（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と〈空〉

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

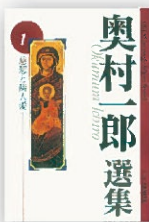
32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士の学位を得る。東洋の宗教思想、特に神祕主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



# 奥村一郎選集



カトリック教会は、第二バチカン公会議において、世界の諸宗教・諸文化にも開かれた福音の現代的意義を世界に宣揚した。その精神を深く一身に体现した靈性指導者、それが奥村一郎師である。幼子のような無と赤裸の心で神を求めるカルメル会靈性を深めつつ、禪仏教をはじめとする東洋的靈性との対話に生涯を懸け、日本人の心の琴線にふれるキリスト教を語った。分かたれることのない心で、「すべて」である神へ。



## 第1巻

### 慈悲と隣人愛

解説：西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読む

み、キリスト教の本質理解に近づく。



## 第2巻

### 多文化に生きる宗教

解説：橋本裕明

宗教対話と靈性交流から得られた柔軟な視点から、日本での

新たな宣教の可能性を示す。



## 第3巻

### 日本の神学を求めて

解説：小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の視点

点である相互愛から問いかける。



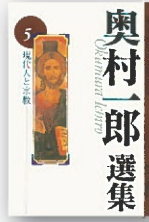
## 第4巻

### 日本語とキリスト教

解説：阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、こ

とばと信仰の関係を再考する。



## 第5巻

### 現代人と宗教

解説：鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教は

どう向き合っていけるのか。



## 第6巻

### 永遠のいのち

解説：八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極

め、永遠のいのちへの道を探る。



## 第7巻 品切れ

### カルメルの靈性

解説：高園泰子

カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通

して、その靈性の根源に迫る。



## 第8巻

### 神に向かう〈祈り〉

解説：高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教

の祈りの本質を明らかにする。



## 第9巻

### 奉獻の道

解説：宮本久雄

すべての人にみずからを与えつづす奉獻生活を通して、

人間そのものの神秘を見つめる。

全9巻（第7巻のみ品切れ） 四六判・上製／平均240頁 定価各2,200円（税込）

8冊以上で送料サービスとなります。

オリエンス宗教研究所 TEL: 03-3322-7601 FAX: 03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



# 福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

## 神と親しく生きる いのりの道

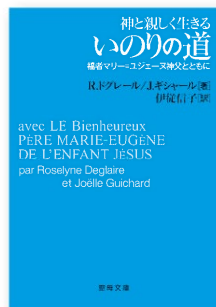
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



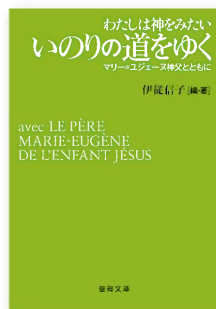
## わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

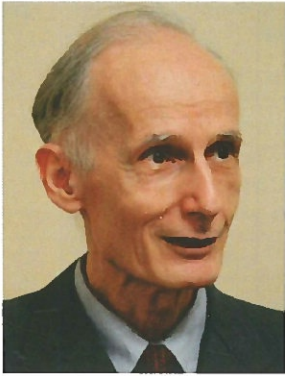
定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340





# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

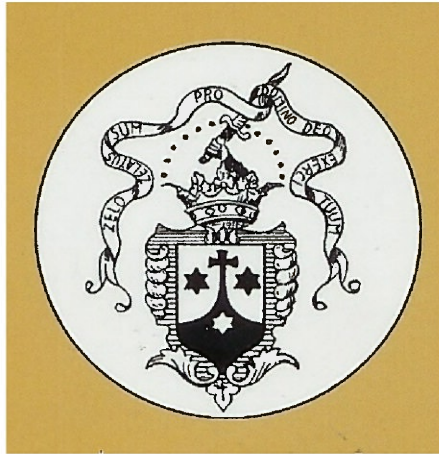
知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*  
(2024年2月～)

- ・ 聖書深読黙想会(土曜日 17時～日曜日 16時) カルメル会士  
2024年 2月24日～25日
- ・ 青年黙想会 (男女) 35歳まで (初日 16時～最終日 16時) カルメル会士  
2024年 3月23日 (土) ～24日 (日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性  
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2024年2月17日

民数記の全体構造とメッセージ① 旧世代

2024年3月16日

民数記の全体構造とメッセージ② 新世代

その後の日程：4月20日、5月18日、6月22日、7月20日、9月21日

その後のテーマ：ヨシュア記の全体構造とメッセージ、士師記の全体構造とメッセージ、サムエル記の全体構造とメッセージ①、②、列王記の全体構造とメッセージ、エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

---

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2024年3月9日（土）10：00～15：00

テーマ：リジューの聖テレーズにおける信頼の道

講話担当司祭：志村武神父

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：聖書、昼食（各自）、お持ちの方は『カルメル山登攀』

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）



## 宇治カルメル会 黙想会案内 (2024年2月～2025年3月)

### 【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

2024年

4月13日～14日 7月20日～21日 9月14日～15日 11月16日～17日

2025年

1月18日～19日 3月1日～2日

### 【聖書深読】(土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

2024年

2月10日 4月6日 6月8日 9月28日 11月30日

2025年

1月11日 3月15日

### 【水曜黙想会】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

2024年

2月14日 3月20日 4月17日 5月15日 6月12日

7月17日 9月11日 **変更**→18日 10月16日 11月27日

2025年

1月22日 2月19日 3月19日

### 【カルメルの霊性】(金曜午後5時～土曜午後4時)

カルメル山の聖母 7月14日(日)～15日(月) 中川博道神父

幼き聖テレジア 9月28日(土)～29日(日) 松田浩一神父

十字架の聖ヨハネ 12月21日(土)～22日(日) 中川博道神父

### 【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

4月27日(土)午後5時～5月4日(土)朝食

参加者は全日通しでもどの日からでも期間は自由

### 【祈りの学校】(木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2024年

2月13日 3月21日

### 【祈りの学校 入門編】(火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2024年

2月20日 3月19日

## 【奉獻生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

2024年

3月4日（月）～13日（水）中川博道神父（一般可）

8月9日（金）～18日（日）松田浩一神父（奉獻者のみ）

10月7日（月）～16日（水）中川博道神父（一般可）

12月27日（金）～1月5日（日）中川博道神父（一般可）

2025年

3月4日（火）～13日（木）中川博道神父（一般可）

## 【青年男女のための黙想会】（35歳以下） 松田浩一神父

1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可）

2024年

2月10日（土）～11日（日）

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしておりますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191  
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp  
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>



## 教皇フランシスコの著作を学びましょう

日時：① 2024年2月10日（土）PM5時～2月11日（日）PM5時

② 2024年4月20日（土）PM5時～4月21日（日）PM5時

③ 2024年6月15日（土）PM5時～6月16日（日）PM5時

④ 2024年10月19日（土）PM5時～10月20日（日）PM5時



（尚、日曜日 PM4時から京都女子カルメル修道院でミサの予定）

- ① 教皇来日講話集：『すべてのいのちを守るため』
- ② 使徒的勧告 『喜びに喜べ』
- ③ 使徒的勧告 『愛のよろこび』
- ④ 回勅 『ラウダート・シー』と使徒的勧告『ラウダーテ・デウム』

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対 象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



## 「祈りの学校」(2024年度)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



**日時(入門編)** : 1月30日(火) 2月20日(火)、3月19日(火)、4月9日(火)、5月7日(火)、6月4日(火)、7月2日(火)、9月17日(火)、11月12日(火)、12月3日(火)

**\*日時(教会の祈り)** : 1月11日(木)、2月13日(火)、3月21日(木)、4月18日(木)、5月23日(木)、6月20日(木)、7月11日(木)、9月26日(木)、10月17日(木)、11月14日(木)、12月19日(木)

いずれも、10時から16時まで

場所 : 宇治聖テレジア修道院(黙想)

指導 : 松田浩一 神父 (男子カルメル修道会)

持参するもの : ノート、筆記、ロザリオ (\*『教会の祈り』)

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒158-0093 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Fax 0774-32-7456

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

# 諸所の企画案内



## 真命山 霊性交流センター サダナ瞑想 慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。



## 真命山 2024年 — 祈りの集いのご案内

### テーマ 真の幸せへの道

「…あなたがたは喜びで満たされる」

(ヨハネ16.24)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月11日 「イエスは…群衆を見て、山に登られた」(ソットコルノラ・フランコ神父)
- 2月8日 「神よ…あなたのほかに しあわせはない」(ソットコルノラ・フランコ神父)
- 3月14日 心の貧しい人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
- 4月11日 悲しむ人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
- 5月9日 柔和な人々は、幸いである(Sr. マリア・デ・ジョルジ)
- 6月13日 義に飢え渴く人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
- 7月11日 憐れみ深い人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
- 8月 休み
- 9月12日 心の清い人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
- 10月10日 平和を実現する人々は、幸いである(Sr. マリア・デ・ジョルジ)
- 11月14日 義のために迫害される人々は、幸いである  
(コデノッティ・クラウディオ神父)
- 12月12日 喜びなさい。大いに喜びなさい。(コデノッティ・クラウディオ神父)



・個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: [shinmeizan@gmail.com](mailto:shinmeizan@gmail.com)

[www.shinmeizan.com](http://www.shinmeizan.com)

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

# サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナⅡ	2/21(水) 17:30- 25(日)16:00	Fr 植栗	汚れなきマリア修道会・町 田黙想の家 (東京都町田市)	来間(くるま) 裕 美子※ (ショートメールは 避けてください) Tel: 090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
フォローアップ	4/14(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル 聖パウロ修道女会 九段修道院 (千代田区九段北)	同上
入門A	4/21(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室 (東京都新宿区市ヶ谷田町)	同上
那須リピーター の会	4/27(土)9:00- 29(月・祝)14:00 (前泊可)	同上	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	同上
ダイアリー	5/2(木)17:30- 6(月・祝)16:00	同上	上石神井無原罪聖母修道院 (練馬区上石神井)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel&Fax: 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



# 祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間: 以下の木曜日、13:30～15:30

3月14日            5月9日

7月11日            9月12日

11月14日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里<sup>くのり</sup> 彰神父(カルメル修道会)

\* 参加費無料(献金歓迎)

\* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送終了のお知らせ \*

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、  
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は  
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック  
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。  
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



